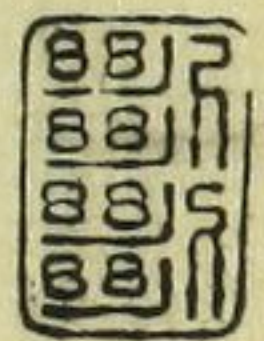




竹取物語序



序



友人山伯鳳竹取語法成爲具令
与学可以察見也哉我社目爲多士
不亦宜乎伯鳳實奇士也伯鳳耽書籍
極該博特善讀山出夷堅等書癖也
嘗謂丈夫處世志于事功其傾心志于

子幼而攻文事自銜者陋之又陋曰之
道惟學在躬以豈暇以他美哉其
志故親戚之親朋友之交善愛之難
處其所得之于學於是乎伯鳳之在
不名益壽乎何在僻編奇衮邪余在伯
所溝瀆石出瀟洛之書視之伯鳳之學

不啻冰炭而其交膠漆以其趨一之故已
學也交也君子必有所操如皮相之所
得焉郁士龍之笑元章之潔謂衆人
人而可乎伯鳳注叶取語是其病間之此吐
奇自危已伯鳳定盡于形顧之粗淺伯
鳳其得余之乃益壽之又其淺余與伯鳳

學如氷炭不相容而其交不啻孫漆
有由矣伯鳳曩與王餘魚為卷々又出此
書以屬序于余以表之深也伯鳳名儀也
浪速人

天明癸卯秋月望藝國賴惟元書于須磨

蓬總



小山き〜ハ〜あ〜ハ〜の〜こ
な〜り〜も〜け〜あ〜ち〜も〜り〜の〜や〜も
の〜り〜も〜も〜あ〜ら〜ハ〜海〜糸〜
〜の〜の〜〜ハ〜あ〜も〜も〜も〜も〜
〜の〜の〜あ〜も〜も〜も〜も〜
〜の〜の〜あ〜も〜も〜も〜も〜
〜の〜の〜あ〜も〜も〜も〜も〜
〜の〜の〜あ〜も〜も〜も〜も〜
〜の〜の〜あ〜も〜も〜も〜も〜

とすまゝに
物ゝいふもなきに
代のたゞしに
既しほかりし
まじし甘し
やといふも
る乃跡のし

うとすまゝに
てまゝに
まじし甘し
やといふも
る乃跡のし

袖とあはれむらさきもよもひし
きりあはれむらさきもよもひし
むらさきのむらさきもよもひし
むらさきのむらさきもよもひし
むらさきのむらさきもよもひし
むらさきのむらさきもよもひし
むらさきのむらさきもよもひし
むらさきのむらさきもよもひし
むらさきのむらさきもよもひし
むらさきのむらさきもよもひし

むらさきのむらさきもよもひし
むらさきのむらさきもよもひし
むらさきのむらさきもよもひし
むらさきのむらさきもよもひし
むらさきのむらさきもよもひし

入

古事記曰天字受賣命者様
 女君葦祖也
 日本紀曰勅天鈿女命汝臣
 以爾顯神名為姓氏曰賜孫
 女君之孫故孫女君等男女
 皆為君此其緣也
 今猿君宮造と書けり一尾
 より心伝但一尾より一尾
 天の地とて断るる事
 らざる事れ似し事
 あらざる事れ似し事

竹取抄

いまそむしきけりわねとつるそのま
 うらまひのまじりて竹をまわつたより
 しのをれしうらまひの名をいれりこれにや
 るにちんいひる事
 竹ハ本草れ中ニ益竹同くものなれハ
 とりて筵簀なるに依る事ハ一史ニ
 淇園千畝竹其人與千戸侯等とれ
 竹園クニ中人はさくらんハ諸侯れ之田にお
 らざるやりあつと一しハたこののや
 猿君宮造とあり 本書名 造 續 日
可追考 本紀
 了れ竹の中にもたれひる竹は人一人ら
 うるもあからしよわくらんはつれ中

俗とてのふ 俗とてのふ
紀汝等二子慈愛共齊崇神
義に通かなん人々
人々を以てしむれはな
即か何とぞとて言はれ
らす。万土あやうけれ
ひつまはれ指いひけん
あうといふもまか
うとてめりまあられし
とてしむるなり。松等
もよるひつまのまの
まのひつまはれおひ
てまひるまはれいひ
まれちりまのまのま
同まのまのまのま

いかりそわ。その城はもろく。三十許なる人
いかりそわ。その城はもろく。三十許なる人
志惟録曰。嘗聞外
舅。說頃。歲狂。牆間。熒。光尺餘。時。出
兄弟中。有不寧者。謂之。恠。憂。之。數。
炳然。如初。外舅性不甘。乃就。拔。之。并
一物。回燈。下看。乃枯竹。根耳。其光遂
滅。病者。無咎。似。人。形。三寸許。云。
異苑。員當竹。中。有人。三寸許。云。
貧。管。竹。節。中。有物。長數寸。絕。似。人。形。
俗。謂。之。竹。人。契。冲。河。社。後。漢。書。
西南夷傳。曰。夜郎者。初。有女子。浣。於

竹取抄

けがれおよひよとて
おまへとまへとて
うらやまといひて

趣方有三節。大竹流入。是。簡。聞。其。中。
有。號。聲。割。竹。視。之。得。一。男。兒。歸。養。之。
及。長。有。才。武。自。立。為。夜。郎。度。以。竹。為。
姓。格。華。陽。國。志。又。物。幽。怪。錄。
云。廬。延。長。史。有。大。竹。凌。雲。可。三。尺。圍。
伐。之。見。內。有。一。仙。翁。相。對。曰。平。生。深。
根。致。節。惜。為。主。人。所。伐。言。畢。乘。雲。而。
去。續。志。筒。順。和。名。津。端。嚴。
珍。奇。紀。本。端。正。端。嚴。
竹の節をかたむけしとて夕たふらるる。
おまへとまへとて

竹取抄

竹取抄
 三室戸齋部秋田ミムロにす。但一作
 名なればまじく考へたるをむ
 よ竹 竹れ總名し奈用竹 又奈
 陽竹 万葉注云仙貴曰なゆせけ
 とも唐竹なりやわらな竹とす
 同内相通也ドウノチよなぞ九一とす
 けり
 不自由なるものしけり
 九あまの
 は子に於てはなりぬ
 みじろぐいんのあまたむ
 さすはたふよ竹のかまゆひめと付
 けり
 万二かゆまけの
 万二かゆまけの

古事記
 万二かゆまけの
 万二かゆまけの
 万二かゆまけの
 万二かゆまけの
 万二かゆまけの
 万二かゆまけの
 万二かゆまけの
 万二かゆまけの
 万二かゆまけの
 万二かゆまけの

契沖曰古事記垂仁天皇段云又
 娶大筒木垂根王之女加具夜比賣
 生御子表邪弁玉ミコノミコ
 生御子表邪弁玉
 生御子表邪弁玉
 生御子表邪弁玉
 生御子表邪弁玉
 生御子表邪弁玉
 生御子表邪弁玉
 生御子表邪弁玉
 生御子表邪弁玉
 生御子表邪弁玉

と訓をチアの及タリ
 樂の義を顯宗紀弘計
 王室壽辭云推上賜五帝
 世壽云釋三指上賜者
 飲酒義也
 うけさういふ 仁徳紀蓋
 之ぬ天容之如地の容と
 ウケルと云ふも容と
 不嫌と云ふも容と

高貴と名伊也

あぢぶなり
 世界れをのこあてなまといや
 うごころのかくやしえ城えそ
 一いふちとねらにそとて
 あてハ貴也。ほ氏のあて人
 貴くと注サカ。いやく
 氣貴事し。えそ一いふち
 わいめいいふして
 なり。万葉よ。藤原卿娶
 時れうた わさともや
 人いふのさうそよす

竹取上五

の以 長恨歌養在守園入
 未識 たまやま 輕
 ともち 欽明紀不可
 爾而伐也
 万十二
 のやま川此安寝もぬす
 万十三
 くのさりやととら

竹取抄

垣牆 容易 たるもいし
 うちらうてしぬも
 葉よ。彼夜者吾毛も
 古信日記 ありともぬ
 物法よ。ありともぬ
 視其私屏 日本喚

むに...ハ夜延とあり契沖云夜
 南旬の...に...
 玉...
 ...
 記ハ千牙神詠也佐用
 盛比亦所理多ス用
 比途所理加用勢...

人のもれ... 物音の略...

...結婚...

...
 ...
 ...

...
 ...
 ...

竹取抄

...
 ...
 ...

...
 ...
 ...

ついでに奥山かゆふ事
 の事なり ぬきこゝたけ
 こゝろはしきしつて後日
 の事ありしこと水泉かき
 つたふ事ありしこと

神代紀は西生児必皆男矣
 万九父母がなりぬまに
 今依りてはかみいこ
 了 剛 故並仙家

ついでに奥山かゆふ事
 の事なり ぬきこゝたけ
 こゝろはしきしつて後日
 の事ありしこと水泉かき
 つたふ事ありしこと

狭衣よ中納をけしけのほ
 はひ狭衣をかむ細
 かなさの人かきつた
 一人げのめのおおほし
 けし

オッカ
 輕易天智紀

やう。ぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけ
 ぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけ
 ぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけ
 ぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけ
 ぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけ
 ぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけ
 ぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけ
 ぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけ
 ぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけ
 ぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけぬきこゝたけ

の中よふありひろきくふれぞ
石造佛子
 やすのそらよらるるをたしとく
 ふいしのもとのたごめぶ北
 血の涙のけくよあはれまじら
 かうやんえんちりやあふとんまご
 續博物志云佛樓沙國有佛鉢受三
 升許青玉也或曰青石或曰雜色而
 黑多四際分明厚可二分貧人以少
 華投中即滿富人以多華正復百千
 萬斛終不滿或曰在月支國又水經
 注西域有佛鉢今猶存其色青紺而
 光云云 河社よ 西域記云波刺

軒上十七

斯國釋迦佛之鉢在此王宮南山住
 持感應傳曰世尊初成道時四大王
 奉佛石鉢唯世尊得用餘人不能持
 也末滅度後安鷲山與白毫光共為
 利益四大王各ひらの石もちをもち
 心をも併写をもちひておいてひと
 つとひてもちなり
 はしげうのえんまの
鉢
 ねんまのえんまのえんまの
 かねのえんまのえんまのえんまの
 かねのえんまのえんまのえんまの
 かねのえんまのえんまのえんまの
 かねのえんまのえんまのえんまの

大和志云
 大和志云
 大和志云
 大和志云

竹取抄

廢小倉山寺倉橋上峰号
 小倉山云々即十市郡
 万八 夕されいさぎの
 ころゆるあゆみのいん
 どののゆるいさぎの
 矢ふては

えりしよあそむいんの
 ぎんぎのゆるいさぎの
 矢ふては

業平はあま おはかづい
 かり火よ小倉のいんあ
 螢火光神 うもて神の威
 ちのちをいし
 ちて海一ちちをいし
 ののれい
 ちりああきちりわのう
 ちをいし
 ちりああきちりわのう
 ちをいし
 ちりああきちりわのう
 ちをいし

いんぎんぎんぎんぎん
 文選ニ鞅掌カワラヒト
 小雜王事鞅掌鞅所拘
 與快同快不服也情不足
 也

車持をくらとらとらとら
 ルマの反りラわんいし

姓氏録曰豊城入彦命之孫雄略天
 皇御世供進乘輿仍賜姓車持公

はろの國よゆめやま
うんとして
はろハ和名鈔云筑前
茶榮乃三 温泉万葉集第
六云師大伴柳宿次田温
泉云 湯のまのりや
きばいまごころ
ふまや 時つるまき
又古と赤八宿次まは
ぬまひがけくハゆめ
あつてはろの國の
あふみき
あふみき

かふるたばう けよ思慮のあふし
神代卷三 日思兼神有思慮之智
おほやちまをほろの國よゆめやま
まうんとして
眠のあふさ玉の枝よりまのくんが
ふまやまてらるる路のまはさふま
ふまき人しこれ路はまがけあふ
あふし
あふまき
公オキダケ官カミ浴ユ ころしくよく帰太
夫なごの休身まを身を休休
つろ路まや幸治路まをいさふ
ゆあふまや

筑前御笠郡湯原とて
あふみきハ温泉あり
ふまよとて其法あり
いさふ
率とも七おほ海の戸
ふまやまのこや
りいせくまの率
まひつるわくし又将
善本今昔物語に持行と
つらゆくとま
まぬいぬ 未帰は不
黒本路つるま僧帰

ゆきつるまのびてはろの國よゆめやま
アたわておふまをまをまをまをまを
はろの國よゆめやまをまをまをまを
くしえまをまをまをまをまを
あふ まをまをまをまをまを
アつら 近き人まをまをまを
はろの國よゆめやまをまをまを
まをまをまをまをまを
まをまをまをまをまを
あふまをまをまをまを
まをまをまをまを
まをまをまをまを

竹取抄

一本のびるまをまをまを

云四聲字宛之鑠冶打金
 鐵為器也。鑠治也。云、
 去聲也。乃。乃。乃。乃。乃。
 乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。
 乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。
 乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。
 乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。
 乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。
 乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。

みら人をきりしつりて。だもやまへ人
 しょうしうき。かたをたしうし
 かひてきりれ かひてりりら
 てはするなれいこし。ひりひのたう
 らかむ河ぎま、いんりのきまも人の
 はむる名人の匠（ウヂナ）なぞ。内通（ウチトウ）
 せんふの太工し。あめあもくれき
 せむるをきりてよし
 ちんげん（チンゲン）はむさうかた。だるくを
 入給ひつ。ち子も回あよらもふい
 てましせ給ひはむさう十六うて
 かこよてはむさうかたて。まの枝をつく

たふし。だつらこのこまま
 ひらひら。ちんげんはむさう。はむさう。
 ひらひら。だつらこのこまま。
 ひらひら。だつらこのこまま。
 ひらひら。だつらこのこまま。
 ひらひら。だつらこのこまま。
 ひらひら。だつらこのこまま。
 ひらひら。だつらこのこまま。

竈カマドを三重（ミヘ）又（マタ）告（ツギ）りて。燈（チ）なごの
 匠（ウヂ）等の脱（ダツ）済（ジ）し。たしを給ひらる限
 ち子の初（ハジメ）り。而（シカ）十六う。所（トコロ）なすもや
 窓（マダ） 順（スミ）和（ワ）名（ナ）よ。文字（モジ）集（ヂ）畧（リヤク）曰（イハレ）窓（マダ）。七（シ）一（イチ）絰（ケツ）
 名（ナ）久（ク） 竈（カマド）。後（ノチ）之（ノ）穿（キル）也（ナリ）。八（ハチ）添（ソヘ）上（ウヘ）郡（クニ）
 此（ココ）事（コト）や。伏（フシ）きき。おんが
 かろや。ちんげんはむさう。やうにきさうらひつ
 ろう。出（デ）つ。いよ。か。し。ら。ぬ。ま。さ。ら。り。り。て。給
 は。よ。み。そ。う。ん。も。て。出。ぬ。毎（マダ）お。り。て。こ
 れ。み。ま。ま。う。つ。と。あ。ま。は。は。ま。ち。り。て。い

とつ九らううかううれきりして
て

かろうふ片くうかつ 漢武故事曰
神屋前庭植玉樹珊瑚為枝以碧玉
為葉或青或赤悉以珠玉為之
空其中如小鈴鎗有聲
ハカウウウカウウカウウカ
つがからせて旅のよるうめは
ていをきくうはこ
らうよくおは九うわうあわ玉の枝
をぞせひのよらくとのおぬら
おてもわらうううううんううら

やういとうきと志のたおてのほう
ううあきううう

まづひの 順和名曰檀蔣鮫切韻云
檀音與貴同和名比都○俗有似厨
向長檀檀折檀小檀等之名向上開闔器也 うとんらあ うや
んげし翻譯名義集云優曇鉢羅此
云瑞應般泥洹經云閻浮提內有尊
樹王名優曇鉢有實無華優曇鉢樹
有金葉者世乃有佛 抱おほいてハ
そ揺ううあれどかけううし 何れうや
そめつらうこたううてうううの
ううあうと教人をらうのうわうう

らんをええ フエのあけ
法華經をかかむる變化
哉へんがらうううう
らうあうううううう
らうあうううううう
玉をえううううう
とれうううううう
んがうううううう
内うううううう
ううう

何れもまがはたむかひのまぢり
 一にさくならぬがたへては
 ちのこをあらはせられぬ
 伴てまを扱てまわりの
 ようのけしむはまら
 ざしはぞまをまわ
 伊おの内りつてまを
 たまをあらはせしむ

さすしとあつてまをまわ
 りつらまわつてまをまわ
 りつらまわつてまをまわ
 一がまをまわ
 けしむはまら
 ねまをまわ
 概
 此れまをまわ
 りつらまわ
 りつらまわ
 のまをまわ
 りつらまわ
 ねまをまわ

哀不^{イト}忍^{ガシ}聴^ミ 蘇^ソ 三^三

りいお
 今^{イマ}の^ノ海^ノや^ハつ^ツま^マと^トあ^アは
 りつらまわ
 今^{イマ}の^ノ海^ノや^ハつ^ツま^マと^トあ^アは
 蘇^ソ 三^三
 永^{トコ}一向^{イツク}と^トつ^ツま^マと^トあ^アは
 浅^{カサ}猿^サ 姉^{イモ} 一^{イツク}向^クと^トつ^ツま^マと^トあ^アは
 びん^{ヒン}ふ^フま^マれ^レば^バら^ラの^ノ身^ミと^トの^ノを^ヲ乞^ヒ

又かろあはたれたとちとれはねえふた
 もあなる 辭
 おきぬおねのちきつひなをさる
 水子又まうをさういふなはあまのけ
 あをさるいふむあやま九うはり
 くめきとさとのまててふ
 河社又さる本のら乃まれ枝はりは
 おの國ゆりれそよた大ねあは
 いまはうをさるいふはうらひ乃
 られまこののまのさるさかた
 しさるかやいさるさるさるさ
 うまうさるのさるさるあせせさるあ

世に

とと城つらうくはく玉の枝はり
 きつらう文選又珊瑚をたのま
 と點せり寶樓閣經云上古生三竹
 金為莖葉七寶為根於枝梢上皆有
 真珠云々小牕別記海外有蓬萊閣
 苑第一山曰廣桑有瓊樹之林又有
 瑤林云々海内十洲記曰玄洲有金
 芝玉草云々圓機活法曰玉枝漢武
 帝得西那國玉樹賜近臣年高者有
 病則枝汗云々
 二月の十日さるさるはくはをさるの

終はうらひのり
 神武紀之到難波之時會
 有至潮大急目以名為浪
 速國亦曰浪華 万十五
 竹取抄

文選海賦於是漁子徂南極東或履
 沒於鼉鼉之穴或挂胃於今山教之峯
 或掣洩於裸人之國或汎悠
 於黑齒之邦或乃萍流而浮轉回
 歸風以自反こまつれ文勢よりりて
 かゝるんこまつれこまつれこまつれ
 文選招魂東方長人
 千仞唯魂是索南方雕頭黑齒得人
 肉祀以其骨為醢レニキトこの外夜國巴大
 温レなるるレ國ハも人の肉をレらレる
 とぞ
 縁のそらよこまつれこまつれこまつれ

竹上世六

万四レいレるレ初レりレまレりレのレまレん
 ぐしレ春レ高レのレあレにレしレる
 文和沖はあま

子やレろレよレいレろレのレ病レ哉レしてレ終レ方
 ちもレおレほレえレ吹レ舟レのレおレくレよレとレつレせ
 てレうレふレたレよレいレくレるレはレとレいレよ
 ちレのレくレけレちレちレちレのレチレ々レわ
 だレにレいレんレゆレあレのレあレちレをレたレんレせ
 とレつレるレ

舟中の人をレたレつレてレいレんレせレら
セトレ通レし
 うレみレのレよレまレたレどレうレはレいレいレあレはレい
 こレてレあレり
 列子曰渤海之東有五山岱嶽員嶠
 方壺瀛州蓬萊也其上臺觀皆金玉

竹上世六

也。珠玕之樹叢生而五山之根無所
 連着。隨潮波上下不得暫峙焉。帝恐
 流於西極。使巨鼈十五舉首而戴之。
 送為三番六萬歲。一交焉。三三三
 かみまよわくくやうなもん
 うのらのさほきくうはしし
 やまごのやむらなもんおといて
 けをぐにおうろく九おぼえそめ
 ちんぐろをきしめざりしてこはた
 りりえありとわ
 徑循 サレタラシ あちちとありとわ
 揮 サ ちちとありとわ

抄上廿七

竹取抄

久人のようほひあつふ女との中らわ
 出来て。ちちとわめかたははをたて
 水をとみありと
 かたはは 順和名曰日本靈異記
 云其器皆銃 和名加奈末利 洛陽伽藍記
 云以金錐汲水五色絲為繩
 宇治拾遺言がわたりとて 河社
 よ天孫の海神の宮まよろあつる
 時のまろけね代終りのまろを
 まろまろ 日本紀云彦火に 出見
 尊至海島就其樹下 後倭 彷徨 良人
 有美人排闥而出 遂以玉銃來當

縁行

和許

~~~~~

車持

ちんばの~~~~~

~~~~~ 黄茶のちりつ

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

五穀

あや一疑ハ漢部ハ綾部の
姓未考神功紀今桑原
一漢人等始祖也云々
官職亦要ハ漢部ト云々

禄玉篇禄賞賜也

伊あ~~~~~
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

竹取抄

て授むなり

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

公文司 綾部 内磨

下役~~~~~

緑 籩子 緑をた~~~~~ 籩子の料

~~~~~ 飯櫃の









玉繼丸

宮司 ミヤツカシ 内子此のまゝいふべき人なり  
大和物成のまゝあつてととめさ  
しごころ シゴコロ 王遠 ミカサト ころはともかさ  
うねなり

たぢはあづのふらドハきこつゆ  
うよつこもろくもておこしうね  
安倍三連 アベミラレ 新撰姓氏録云大彦命  
孫名代天武御世献之楊花勅曰何  
花代奏曰辛夷花也群臣曰是楊花  
也名代猶強奏曰辛夷花也曰賜安  
倍志斐連姓生 又阿陪 阿開  
同祖也 財豐度庶 カネトヨシノシラ

竹取上世四

んだいごころ 万十二  
たけのこはけいひ  
とんまはうのまは  
# 123456789101112

あのを まうらひはもう 船のち  
きいしう人のまじふまを  
おのの皮のうまをまのあひ  
こまのまはけいひまはけいひ  
まはけいひまはけいひまはけいひ  
まはけいひまはけいひまはけいひ  
王卿 ミカサト なまがくまはまはけいひ  
小野房守 コノノボ

もていふあのかいひまはけいひまは  
まはけいひまはけいひまはけいひ  
まはけいひまはけいひまはけいひ  
とめなり

竹取抄



しつらんせめし十句三  
るふりて一し  
を寫張紙

和名鈔云、穆天子傳云、駿馬  
之美稱也、漢語抄云  
工岐字石

うらむせむくも終りぬ言り  
あつてはくしより只七はよめうぐ  
まは  
あゆことうきまて駿馬のるじ  
又さるるに云、火ぬぢみののはなが  
らうじてく城あしむもめんまは  
このまむははいんまやうなうお  
なりを現きし一あしよま三のひ  
しりは國よもてわらてけうは西の  
しきありとらわらびくおあけ  
らうしてあらうまうしとらてな  
ぶあしひのまきとらわらうし使

竹取抄

あつひのまきとらわらうし  
らう使まきとらわらうし  
らうまのいおとらわらうし  
うは國よハたまの  
まうとらわ

まうせうらわらまきとらわら  
てまひうい百金ふ十兩終り一  
れらうんまはりてあびおとま  
わらうぬものなうは彼らうものま  
らうしあつていんまきとらわら  
あらうて 辛し 一あつていん  
賢とわはあつていんまきとらわら  
なまの類なうて 一公府  
らうてわらう 國司 筑紫のらう  
國よなうて 一質 給賜あつて  
あつてわらう  
ほおほま今まかうてわらうあな

竹取抄

きりりしてかきしるはふれども  
ろくしのわたりあひくもくも  
あははのいそあははあはあはあ  
らきこのいそはしきさきとけい  
はらわ

らあはをくくもくのみをくわ  
けをくくもくへ表へ種く魏志

注云瑠璃本是石出大秦國凡十種  
之色す水晶瑠璃のろか入火不  
焚いろもくいろどりてなり  
かきぬをえきいんせう乃むろく  
けのを体よいづみのまーとやこ

抄上

きりりだつていんせうはくしき  
あははあはあはあはあはあ  
わもけくろくろくかきり  
ろくろくあはあはあはあはあ  
これ但一名義集曰瑠璃此云青  
色寶言金翅鳥之卵殼鬼神得之出  
賣與人名紺瑠璃云毫末  
こくもくろくろくはくしき  
齊東野語曰昔温陵有海商漏船搜  
其橐中得火鼠布一疋遂拘置郡  
凡太守好事者必割少許歸以爲玩  
外大父常守郡亦得尺許余嘗親見

竹取抄

之色微白頗類木綿。絲縷蒙茸若蝶  
 粉蜂黃然每洗以油膩投之熾火中  
 移刻布與火同色然後取出則潔白  
 如雪了無所損後為人強取以去  
 華夷珍贖考曰岑樓慎氏曰予閱昆  
 壽傳火浣布與蕉麻無異而色微青  
 黑回憶少年聞中所見火浣布無以  
 異之晋此惠帝異國より火浣布  
 をもちし其をきりてむくむく石棠が  
 家より幸し終つたよ石棠ぶつちのこ  
 と十人許を肌火嵐の衣をておつた  
 ちて帝おぼしきとらゆつたよ。又氷鬚

竹取抄

とつち虫よておろききりてこは火り  
 入るわけど水よ入るはほいしをこ  
 とよけうの物なり。ちん江戸の人よ  
 火浣布洗かるとあり石のこつと  
 けつものを用といふ。是も奈奈野  
 志の注よ。石岩有絲可織為布。上不  
 畏火。未知果否。云々。けり。ハ。ま。ま  
 ちなま。し。

むべがらやちんのかれもーがりあま  
 らうありうんとおろきひてあま  
 らう。おろきよ入る終ひて  
 五。ちんぞらうがらやひあまらう

竹取抄

ねりまのりまのりま  
 太<sup>子カシコ</sup>惶 古<sup>ノ</sup>行<sup>ノ</sup>指  
 まよまのりまのりま 神代  
 まよ<sup>ノ</sup>惶<sup>ノ</sup>まのりまのりま  
 まよまのりまのりまのりま  
 太<sup>子カシコ</sup>惶<sup>ノ</sup>まのりまのりま  
 まよまのりまのりまのりま  
 まよまのりまのりまのりま

のりまのりまのりまのりま  
 のりまのりまのりまのりま  
 のりまのりまのりまのりま  
 のりまのりまのりまのりま  
 のりまのりまのりまのりま  
 のりまのりまのりまのりま  
 のりまのりまのりまのりま

四ノ一

ちりまのりまのりまのりま  
 おつてまのりまのりまのりま  
 ちりまのりまのりまのりま  
 のりまのりまのりまのりま

化粧 <sup>カシコ</sup> 月<sup>ノ</sup>下<sup>ノ</sup>まのりまのりま  
 上略 <sup>ノ</sup>あひまのりまのりま  
 ちりまのりまのりまのりま  
 のりまのりまのりまのりま  
 のりまのりまのりまのりま  
 のりまのりまのりまのりま  
 のりまのりまのりまのりま  
 のりまのりまのりまのりま  
 のりまのりまのりまのりま  
 のりまのりまのりまのりま  
 のりまのりまのりまのりま

ことごとくはるばるいねん  
 ことごとくはるばるの妻とお  
 ことごとくはるばるの妻とお  
 ことごとくはるばるの妻とお  
 ことごとくはるばるの妻とお  
 ことごとくはるばるの妻とお

ことごとくはるばるいねん  
 ことごとくはるばるの妻とお  
 ことごとくはるばるの妻とお  
 ことごとくはるばるの妻とお  
 ことごとくはるばるの妻とお  
 ことごとくはるばるの妻とお

辨 請入 火氣の妻と思ひしものなり

ことごとくはるばるいねん  
 ことごとくはるばるの妻とお  
 ことごとくはるばるの妻とお  
 ことごとくはるばるの妻とお  
 ことごとくはるばるの妻とお  
 ことごとくはるばるの妻とお

やもめ 寡 字書無夫云寡

竹取抄

ことごとくはるばるいねん

ことごとくはるばるいねん  
 ことごとくはるばるの妻とお  
 ことごとくはるばるの妻とお  
 ことごとくはるばるの妻とお  
 ことごとくはるばるの妻とお  
 ことごとくはるばるの妻とお

竹取抄





そぞろにひらくれば、まをまをひらき、そぞろにけ  
なごもれをばあつねしとひらき、は

無<sup>ヒナキ</sup>遂 <sup>ヒナキ</sup>事れをげさるるなり

無<sup>ヒナシ</sup>端 <sup>ヒナシ</sup>あらしめさし、安信なりしと

の香匂なり

大伴のまゆまゆ大辨さし、いふ家あまよか  
かあはくもあつねし、あつねし

姓氏録曰、大伴道臣、命十世孫、佐<sup>サニ</sup>氏

彦之後也、河社よ、あつねし、姫を思ひ

あつねし、あつねし、あつねし、大伴乃

大辨し、みおろし、文武天皇の御代

の、賜右大伴大付、富祿御行、とまを



あつねし、但し、他は流ならぬ、そぞろに

まをまをひらき、あつねし

あつねし、あつねし、あつねし、あつねし

あつねし、あつねし、あつねし、あつねし

あつねし、あつねし、あつねし、あつねし

あつねし、あつねし、あつねし、あつねし

あつねし、あつねし、あつねし、あつねし

あつねし、あつねし、あつねし、あつねし

あつねし、あつねし、あつねし、あつねし

あつねし、あつねし、あつねし、あつねし

あつねし、あつねし、あつねし、あつねし

あつねし、あつねし、あつねし、あつねし



ことしからゆれりしは  
 生いよに政府せしむる  
 ことしにわたりては  
 入るにちの使と  
 更なるにちの奉仕  
 の事

使となれりしは  
 いふに  
 大物  
 命  
 たり  
 たいの  
 此の  
 うぬ  
 して  
 かつ  
 おは

行

ちの  
 立性  
 中紀

かん  
 空  
 遊仙  
 窟  
 方使  
 竹取抄

帛 綿 錢  
 物忌 齋日 東鑑  
 いまの 精進の事

新の首の玉  
 まつ  
 事  
 此  
 も  
 大和物  
 人  
 源氏  
 親

キレシキヤウヤウと来奉古  
 来説(昔)あひひくは  
 うこめくまなう人  
 はまなこしひひひ  
 人かまじんはまのなれ  
 こまなひひひひひひ  
 ひひひひひひひひひひ  
 ひひひひひひひひひひ  
 ひひひひひひひひひひ  
 ひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひ  
 ひひひひひひひひひひ  
 ひひひひひひひひひひ  
 ひひひひひひひひひひ  
 ひひひひひひひひひひ  
 ひひひひひひひひひひ  
 ひひひひひひひひひひ  
 ひひひひひひひひひひ

おほせ終の事とてゆめをれゆめ  
 大納言をみしあひひひ

はななき ふけたなき事とのいさ  
 とし 事ゆめ らちのあつぬ

ゆめし 史記曰夏孔甲時天降龍  
 二使劉累擾之龍死以食夏后夏

后使求懼而遷太畧  
 かくやあめとあんまをさしやうまを

ふくしとあつひひひひひひひひひひ  
 たりわ終ひてふひひひひひひひひひひ

てふひひひひひひひひひひひひひひ  
 えてまひひひひひひひひひひひひひひ

新刊

うたあん 新

らひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 2あまをふひひひひひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 ひひひひひひひひひひひひひひひひ

日陳武帝以青漆塗壁曰青樓  
 神繪 神代卷よりむを鷓鴣羽

綾織物 屏風の障子よりひひひひひひひひひひ  
 綾織物 屏風の障子よりひひひひひひひひひひ

あまをさしやうまをさしやうまをさしやうまを  
 せよめまふの方あまひんかまひひひひひひ

ふひひひひひひひひひひひひひひひひ  
 せよめまふの方あまひんかまひひひひひひ

竹取抄

そのあまをさしやうまをさしやうまを  
 せよめまふの方あまひんかまひひひひひひ

ほろろしーくさよはひのたけあること  
しーくさよはひのたけあること  
しーくさよはひのたけあること  
しーくさよはひのたけあること  
しーくさよはひのたけあること

舎人 召次 宴

向ひ給ふ事ハ大伴の大船ののしか  
船ののりてきつりしーくさよはひのたけ  
あることしーくさよはひのたけあること  
しーくさよはひのたけあること

万葉六十五、橘部王歌よきつりの

竹取抄

しーくさよはひのたけあること  
しーくさよはひのたけあること  
しーくさよはひのたけあること  
しーくさよはひのたけあること  
しーくさよはひのたけあること  
しーくさよはひのたけあること  
しーくさよはひのたけあること  
しーくさよはひのたけあること  
しーくさよはひのたけあること  
しーくさよはひのたけあること

竹取抄



万葉集卷十 秋のつと  
らそいふことなる

提取 文選 吳都賦 稿工機  
師 和名 如 万七 師  
いづに 提取 出たの  
あは

よまふことなる  
きりきり

大御こころもさうての  
あつてハ提取れさす  
こころのさだめなる  
れくさすさうてあは

船のれりさす  
わくわくさす  
つと 咽 和名 歌吐

あつてりさすさす  
こころにさすさす

竹取抄

あつてハハ他  
のさす

よまふことなる 可畏行紀  
徳紀我雖不賢  
其命公命公命

竹取抄

あつてりさす  
わくわくさす  
こころにさすさす

あつてりさす  
わくわくさす  
こころにさすさす  
あつてりさす  
わくわくさす

あつてりさす  
わくわくさす  
こころにさすさす  
あつてりさす  
わくわくさす



菴も身よりけのそ  
ろつとくむくのそ  
きりぬきりけせん  
よぐれし  
孝徳紀  
雄元年二月奉賀天智十  
年正月奉賀正事持統紀  
四年正月讀天神壽詞續  
日本紀延暦五年二月奉  
神吉事延喜式云中臣進  
就座宣祝詞云いよ  
いよまはひしんけん  
そのこハ後口をいよま  
ときこなるし他  
ぬはむ折ならぬ式の祝  
詞のこねむせん  
そののこねむせん  
けいあへん 驗  
そま

さひらりいよまのら毛一  
ぶらうしきりぬきりぬ  
ちてまぬなくしよまひ  
きりぬきりぬ  
握れぬ神 位喜ぬ神  
彫 ぬのおろしきりぬ  
廟 日本 毛一筋 感通傳唐時得  
龍毛其色赤黄云ト  
い事城なりして折  
けいあへんしんけん  
あつてぬハ折るぬ  
ハ折のきりぬ

和名上四十

和名鈿云擔磨圖 明石

よま方此風なりあそ方ぬ  
らぬよま方よねぬ  
いよま大細えハを  
あまてあまて  
ばありのらし  
納々南海の  
よまひしんけん  
けいあへんしんけん  
かきりぬきりぬ  
よまひしんけん  
れあしぬきりぬ

氣衝万葉嘆息

竹取



大物言ふおめつてめくまをくなんぢう  
よくもてゝもなつちぬ。然ハなううふの  
るわうしてふあわしれ

日本紀曰雄略天皇七年七月天皇  
女子部連螺贏スガルと詔してめくまを  
家三徳モロの岳の神めくまをけんめ  
をわすめぬ。海濟ナカラかふとてくまを  
あつゆよとて。扱トウへあつゆし。螺贏スガルを  
ち。之徳が岳よめつて。大蛇ナガヘを  
扱つて。天皇よなほ其雷カミ也。目精メノコ  
赫カク。天皇おそめて。同姓オホ蔽カサひくえ  
きりもて。後中よかると入路ひ其

(抄上五十二)

神をぞ長よとめくまをくまひ。及  
めて名をたふとつりて。雷カミと。靈異  
記よ。栖カ輕ヤ亦を扱つて。天のつひ。雷  
神急降スミヤカと。といひ。ば。楚浦寺の  
飯園イヒノの向は。高タカ。即スナハ。其コノ也。とて。  
帝よ。なほ。と。き。く。ま。を。く。ま。ひ。の  
るわうしてふあわしれ  
あれが玉をくまをくまひ。人への。  
いせけん。と。く。ま。を。く。ま。ひ。の。く。ま。ひ。  
も。く。ま。を。く。ま。ひ。の。く。ま。ひ。の。く。ま。ひ。  
す。ま。を。く。ま。ひ。の。く。ま。ひ。の。く。ま。ひ。  
莊子の葉公子高説をのびくまを

若干しが日く  
此人し。く。ま。を。く。ま。ひ。の。く。ま。ひ。  
一十萬ソコハク。と。い。ひ。ぬ。  
日義

竹取抄



ておしるい...  
ア起...  
き...  
珠...  
の

のり... 大付大納...  
ひの...  
とあ...  
あ...  
と...  
ふ...  
き...  
あめ... 大巨... 唐人調...  
有桃花面皮杏子眼孔之事...  
ハ杏子...  
...

